

動物と日本文化

野生の動物を見ることも少なくなりました。しかし、日本の昔話には野生の動物が身近な存在として描かれています。昔の人は彼らをどのように感じていたのでしょうか。今の私たちも、見ることはあまりないけれど、彼らにちなむ言葉や信仰を共有しているようです。秋の景色に風情を添えるものとして文学作品などに登場する、シカ（鹿）・サル（猿）・キツネ（狐）・ニワトリ（鶏）・カリ（雁）を取り上げ、日本文化の特質を考えます。

■日 時：平成 21 年 10 月 2 日，9 日，16 日，23 日，30 日

金曜日 13:00～14:30

■会場：県立広島大学 広島キャンパス（広島市南区宇品東 1-1-71）

■講師：人間文化学部国際文化学科 教授 樹下文隆

■内容：

回	月 日	テ ー マ
1	10月 2日	鹿と日本文化
2	10月 9日	猿と日本文化
3	10月16日	狐と日本文化
4	10月23日	鶏と日本文化
5	10月30日	雁と日本文化

■受講料：3,000円

■募集人数：50人程度

■対象：どなたでも

■申込方法：①郵便番号，②住所，③名前，④ふりがな，⑤電話番号，⑥動物文化講座受講希望と記入した用紙（様式自由）と⑦80円切手を貼り，申込者の宛先を記入した返信用封筒を，平成 21 年 9 月 11 日（金）（消印有効）までに，次の宛先に郵送してください。9 月下旬に受講料振込書と受講案内をお送りします。なお，振り込まれた受講料はお返しできませんので，ご注意ください。

〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71

県立広島大学地域連携センター「動物文化講座」係

TEL 082-251-9534

※申込にあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座以外の目的には使用しません。

■同時開催：講座期間中，図書館 2 階中央ホールで，講座の内容にあわせた企画展を開催します。

■お願い：学内には来客用駐車場がありませんので，公共交通機関をご利用ください。

《各回の概要》

第1回 鹿と日本文化

「奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき」など、鹿の妻呼ぶ声は、秋のもの悲しさを象徴するものとして和歌などに多く詠まれています。また、奈良の春日大社のように鹿を神の使いとする信仰もあります。和歌や能を中心に日本文化における鹿を考えます。

第2回 猿と日本文化

「五夜の哀猿月に叫ぶ」など、猿も秋の寂しさを詠む時によく使われますが、水に映る月を取ろうとするほほえましい意匠もあります。また、比叡山の日吉大社のように猿も神の使いとして活躍します。人に近いだけに滑稽な内容も多い猿をテーマに、日本文化を考えます。

第3回 狐と日本文化

いったいいつ頃から、狐はお稲荷様の代名詞になったのでしょうか。一方、「玉藻の前」に代表される悪い狐も物語にたくさん登場します。狐をめぐる様々な説話には、日本文化の重層性を解く鍵が隠されているようです。能や狂言を中心に、狐にまつわる物語をお話しします。

第4回 鶏と日本文化

「夜をこめて鶏の空寝ははかるとも世に逢坂の関は許さじ」は、中国の故事に由来する清少納言の和歌です。私たちの生きる糧となってくれている鶏ですが、昔の人は鶏の持つ不思議な力を信じていました。秋の女神、竜田姫の使いでもある鶏にまつわる物語をお話しします。

第5回 雁と日本文化

「秋風に初かりがねぞ聞こゆる誰が玉章をかけてきつらむ」は、中国の「雁信」の故事に由来する紀友則の和歌です。秋にやってきて春に北国に帰っていく雁は、とりわけ故郷を離れた人が家族や恋人への想いを託す存在でした。雁の文化史についてお話しします。